

第14回神戸市みちの懇談会

日 時 平成22年3月24日 午後3時～5時40分
場 所 神戸市役所都市計画総局大会議室

1. 「計画の背景とみちづくりの柱」について

- ・本計画は、事業中心で構成されており2025年の将来像が分かりにくい。
- ・神戸市全体を対象として構成されているが、地区の課題はそれぞれであり、市民の方に身近に感じてもらうためには、区計画と連携させたものにする必要がある。
- ・道路事業予算については、投資経費は増加するように見える。高速道路等への出資金や、橋梁の耐震化なども投資経費に含まれるという注釈が必要。

2. アウトカム指標について

- ・市政アドバイザーのアンケートについて、区別の傾向を把握したい。
- ・みちづくりの指標は、道路以外の要因で結果が変わるものがある。道路の施策で達成できるような指標を探せないか。
- ・「経済活動」のピーク時旅行速度は、高速道路とその他の道路は分けて算出すべき。
- ・「安心・安全」の死傷事故率の単位が分かりづらい。また、この数値を使うのであれば、経年変化を記載してはどうか。
- ・「魅力・にぎわい」の放置自転車やごみを用いた指標はデザイン都市とはイメージが大きく異なる。

3. 2章 取り組み内容について

<重点施策>

- ・重点施策とその他の施策との関わりが分かりづらい。
- ・広域道路ネットワークは、神戸市が事業者ではないため、重点施策となっていないが、重要な施策である。重点施策の取り扱いについては、考慮が必要。
- ・重点以外の施策についても、できるだけ詳細に取り組みを記載した方が良い。

<個別施策>

- ・ウォーターフロントは非常に重要であるが、兵庫運河、須磨舞子、医療産業都市などとの連携を踏まえた広域的な構想が必要である。また、回遊性については、歩行者だけでなく、他の交通手段と一体となった検討が重要。

4. 3章「実現に向けて」について

- ・「選択と集中」による重点投資という言葉は一般的であり、神戸らしい重点投資は何か明記した方が良い。
- ・「みちづくり計画」を読んで、神戸市が非常に多くの取り組みを実施していると感心した。本計画については、パブリックコメントなどを踏まえ、市民の理解が得られるように分かりやすく広報することが重要。
- ・「みちづくり計画」の評価と進行管理については、具体的な内容を明記した方が良い。

5. その他

- ・見出しの統一を図ってはどうか。
- ・カタカナや専門用語は極力使わないように。